

⑤ 電気痙攣療法（ECT）

「電気痙攣療法（ECT）」の実施頻度をみると、「月に1回未満」が72.7%（8件）、「月に1～3回」が27.3%（3件）である。

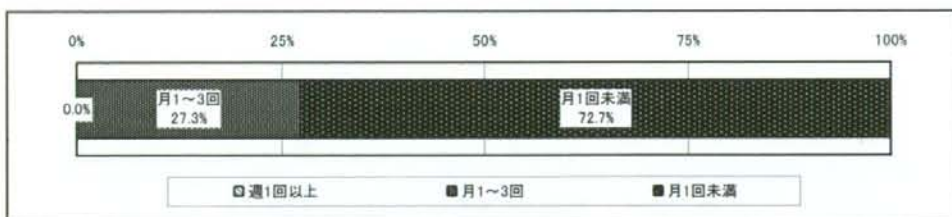


図3.2-24 「電気痙攣療法（ECT）」の実施頻度

表3.2-46 「電気痙攣療法（ECT）」の実施頻度

	週に1回以上実施	月に1～3回実施	月に1回未満実施	全体
割合	0.0%	27.3%	72.7%	100.0%
件数	0	3	8	11

表3.2-47 既存の医療機器に求められる改良点

- ・ サイマトロンと木箱以外の機器に保険適応を（大学病院・600床以上）
- ・ ECTの準備の手間。配線が多すぎる。簡便な方法（公的病院・100床～299床）
- ・ 頭皮火傷（公的病院・300～599床）
- ・ 脳動脈瘤の有無を事前に調べる事が望ましいがMRIの台数に限りがありなかなか難しい（一般病院・100床～299床）
- ・ 麻酔科がないと購入できない点（一般病院・300～599床）

a) 脊椎 instrumentation

「脊椎 instrumentation」を実施している回答者はいなかった。



図3.2-25 「脊椎 instrumentation」の実施頻度

表3.2-48 「脊椎 instrumentation」の実施頻度

	週に1回以上実施	月に1～3回実施	月に1回未満実施	全体
割合	-	-	-	-
件数	-	-	-	-

注：手技を実施した回答者がいない項目は「-」とした。

表3.2-49 既存の医療機器に求められる改良点

-

⑥ その他の治療法

「その他の治療法」の実施頻度をみると、「週に1回以上」および「月に1回未満」が42.9%（3件）、「月に1～3回」が14.3%（1件）である。

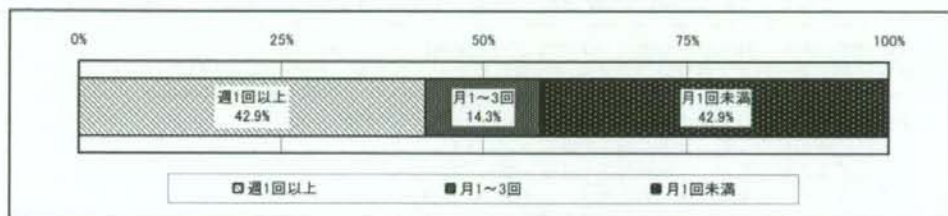


図3.2-26 「その他の治療法」の実施頻度

表3.2-50 「その他の治療法」の実施頻度

	週に1回以上実施	月に1～3回実施	月に1回未満実施	全 体
割 合	42.9%	14.3%	42.9%	100.0%
件 数	3	1	3	7

表3.2-51 「その他の治療法」の内容

- ・ 薬物療法
- ・ 精神療法
- ・ ボツリヌス治療
- ・ ステロイドパルス
- ・ 免疫グロブリン静注療法

表3.2-52 既存の医療機器に求められる改良点

- ・ アレルギー反応が以外と多い（大学病院・600床以上）
- ・ 注射針付きの筋電図針が欲しい（公的病院・100床～299床）
- ・ 完成している薬が未だに無い。使いづらい、効果が不十分など（一般病院・100床～299床）
- ・ 副作用の軽減（一般病院・100床～299床）
- ・ 抗精神病薬の副作用（一般病院・300～599床）
- ・ 根治困難（一般病院・300～599床）

(3) 新規の医療機器・技術・材料のイメージ・機能・効果

「まったく新しい治療方法を実現するような『新規』の医療機器・技術・材料のイメージ・機能・効果」についての意見は、以下のとおりである。

表3.2-53 新規の医療機器・技術・材料のイメージ・機能・効果

<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔医がいれば、修正型が望ましいのですが（大学病院・300～599床） ・ 静脈麻酔下でのパルス波だけでなくサイン波も利用できる機器（大学病院・600床以上） ・ テーラーメイド医療の確立（薬物反応性、予後、副作用の種類・出現率の把握）（大学病院・600床以上） ・ 麻酔を必要とせず、危険のない方法（公的病院・100床～299床） ・ 注射針付きの筋電図針（公的病院・100床～299床） ・ 水冷コイルの開発など（公的病院・100床～299床） ・ 現段階の技術では無理かもしれませんが（一般病院・100床～299床） ・ 原因が分かっていないものが多く、それゆえ新しい治療方法なども研究者レベルでないと答えがたい（一般病院・100床～299床） ・ 人での脳神経細胞、分子レベルの直接的機能、薬物作用を計測可能な機器。それにより、疾患の原因、治療につながる（一般病院・300～599床）
--

(4) 今後のわが国における低侵襲医療機器の開発と普及についての意見

「今後のわが国における低侵襲医療機器の開発と普及についての意見」は、以下のとおりである。

表3.2-54 今後のわが国における低侵襲医療機器の開発と普及についての意見

治療方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ ECTは野蛮なやり方であると批判されますが、一定の治療効果があります。啓蒙される機会があればうれしいです（大学病院・300～599床） ・ 磁気を利用した機器の治療方法の改善、対象疾患の拡大（大学病院・600床以上） ・ 外来での用いやすさ、利用しやすさについての研究（公的病院・300～599床）
開発体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各機関での情報共有（公的病院・100床～299床） ・ 大学や研究機関で、開発ののち、医療機関で臨床的評価を受ける（公的病院・100床～299床） ・ 国、大学・研究機関が責任を持って取り組むべき（一般病院・300～599床） ・ もちろん、産官学共同で積極的に取り組んで欲しいですが...（一般病院・100床～299床） ・ 適応、効果、合併症などについて医師への正確な情報提供を進めていくことが大切（一般病院・100床～299床） ・ 民間企業が大学だけでなく、その他の医療機関とも広く連携して開発に当たるべきだと思う（一般病院・100床～299床） ・ 医療機器開発に当たっては、臨床の医師の意見が反映できるようなシステムが必要（一般病院・300～599床） ・ 官民一体で取り組むべき（診療所・100床未満）
開発環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳神経領域では基礎的研究の発展が不可欠（大学病院・600床以上） ・ 予算獲得の手續きとその執行に対する規制が多すぎるため、研究者の自由裁量にもっと任せるべきである（公的病院・100床～299床）
資金援助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国が補助を出すべき（公的病院・100床～299床） ・ 国は金と指示を出すだけであてにならない。金も海外にばら撒き、医療・教育に当てないので全く期待するものではない。同様に大学もできることは限られるだろう。生体工学企業の責務が大きいか？（一般病院・100床～299床）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倫理的問題などが多く、明快な意見は困難である（一般病院・300～599床）

3.3. 患者ニーズアンケート調査

3.3.1. 調査概要

3.3.1.1. 調査目的

「悪性新生物」および「精神・神経系疾患」の罹患歴のある患者を対象に、検査・診断時および手術・処置時の不安・不快について調査を行うことにより、既存の医療機器の課題を明らかにし、今後の医療機器の開発に役立てることを目的とする。

3.3.1.2. 調査対象

本調査の調査対象は、インターネット調査会社（株式会社マクロミル）の調査モニターのうち過去5年以内に「悪性新生物」あるいは「精神・神経系疾患」に罹患した経験を持つ15歳以上の患者である。

3.3.1.3. 調査方法

本調査はインターネット上でアンケート調査を行った。

「悪性新生物」あるいは「精神・神経系疾患」の既往歴のある15歳以上のモニターに対して、アンケート調査の依頼メールを配信した。

事前スクリーニングとして、表3.3-1に示す「悪性新生物」および「精神・神経系」の疾患を提示し、対象疾患の既往歴のある患者を調査対象とした。提示した疾患の既往歴がない場合には、調査対象外とした。

本調査では、厚生労働省の患者調査（平成17年度）の患者数をふまえて回収目標件数の割付を行った。回収目標件数としては、脳腫瘍5名、胃がん130名、大腸がん45名、肝臓がん65名、乳がん85名、前立腺がん70名、精神・神経系疾患（アルツハイマー病、パーキンソン病）100名を設定し、目標件数に達した時点で回答を締め切った。

表3.3-1 調査対象疾患と回収目標件数

悪性新生物		精神・神経系疾患	
脳腫瘍	5	アルツハイマー病	100
胃がん	130	パーキンソン病	
大腸がん	45		
肝臓がん	65		
乳がん	85		
前立腺がん	70		

3.3.1.4. インターネットアンケートの実施期間

2009年1月29日～2009年1月31日

3.3.1.5. 総回答件数

総回答数は518件であった。

3.3.1.6. 調査項目

本調査の調査項目は表3.3-2に示すとおりである。

表3.3-2 調査項目

区 分	調査項目
病歴・治療歴	(1) 回答者の病歴・治療歴
	(2) 現在の通院状況
検 査・診 断	(3) 検査・診断時の不安・不快
	(4) 検査・診断時の不安・不快の内容
手 術・処 置	(5) 受けた手術・処置の種類
	(6) 手術・処置時の不安・不快
	(7) 手術・処置時の不安・不快の内容
	(8) 希望したにもかかわらず受けられなかった手術・処置の有無
	(9) 希望したにもかかわらず受けられなかった手術・処置の内容

3.3.2. アンケート調査結果

3.3.2.1. 悪性新生物

(1) 回答者の属性および基本情報

① 回答者の性別

回答者の性別は、がん全体で見ると、「男性」が 63.3% (257 件)、「女性」が 36.7% (149 件) である。

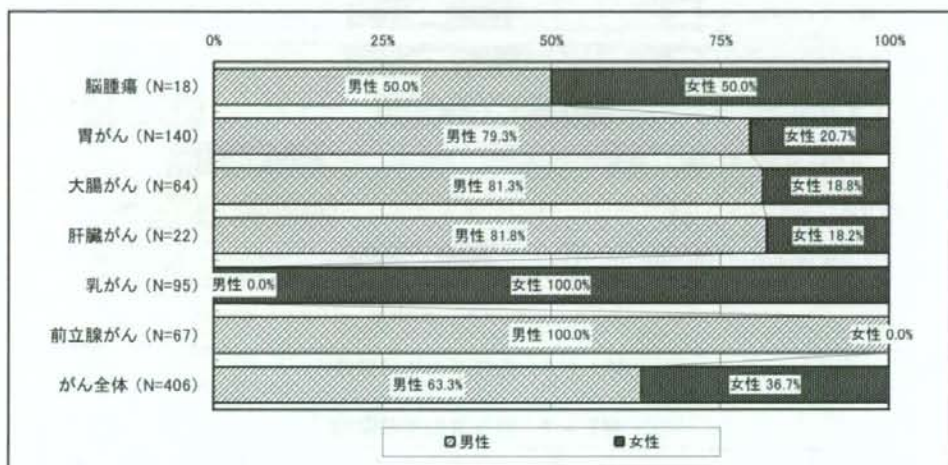


図3.3-1 回答者の性別

表3.3-3 回答者の性別

疾患名	男性		女性		全体	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
脳腫瘍	9	50.0%	9	50.0%	18	100.0%
胃がん	111	79.3%	29	20.7%	140	100.0%
大腸がん	52	81.3%	12	18.8%	64	100.0%
肝臓がん	18	81.8%	4	18.2%	22	100.0%
乳がん	0	0.0%	95	100.0%	95	100.0%
前立腺がん	67	100.0%	0	0.0%	67	100.0%
がん全体	257	63.3%	149	36.7%	406	100.0%

② 回答者の年齢階級

回答者の年齢階級は、がん全体でみると、「60歳代」が25.4%（103件）と最も多く、次いで「40歳代」が24.6%（100件）、「50歳代」が22.7%（92件）、「70歳代」が14.3%（58件）、「30歳代」が10.6%（43件）、「20歳代」および「80歳代」が1.2%（5件）である。

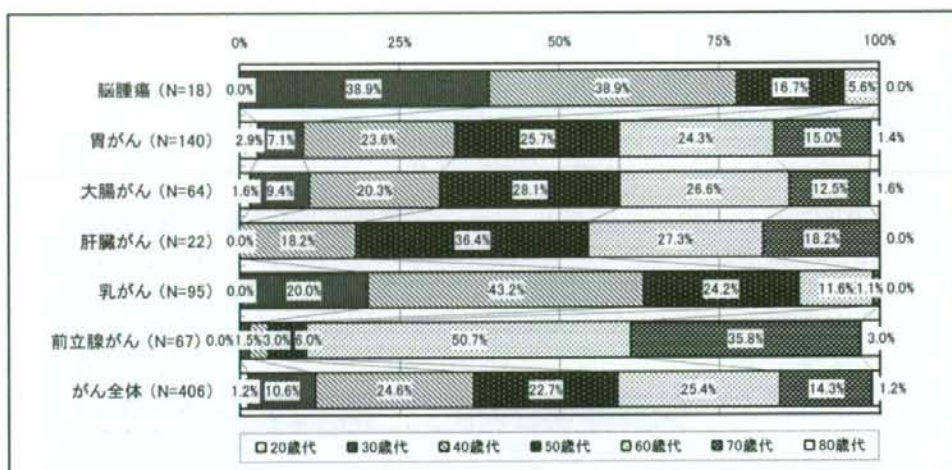


図3.3-2 回答者の年齢階級

表3.3-4 回答者の年齢階級

疾患名	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	全体
脳腫瘍	0.0%	38.9%	38.9%	16.7%	5.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	0	7	7	3	1	0	0	18
胃がん	2.9%	7.1%	23.6%	25.7%	24.3%	15.0%	1.4%	100.0%
	4	10	33	36	34	21	2	140
大腸がん	1.6%	9.4%	20.3%	28.1%	26.6%	12.5%	1.6%	100.0%
	1	6	13	18	17	8	1	64
肝臓がん	0.0%	0.0%	18.2%	36.4%	27.3%	18.2%	0.0%	100.0%
	0	0	4	8	6	4	0	22
乳がん	0.0%	20.0%	43.2%	24.2%	11.6%	1.1%	0.0%	100.0%
	0	19	41	23	11	1	0	95
前立腺がん	0.0%	1.5%	3.0%	6.0%	50.7%	35.8%	3.0%	100.0%
	0	1	2	4	34	24	2	67
がん全体	1.2%	10.6%	24.6%	22.7%	25.4%	14.3%	1.2%	100.0%
	5	43	100	92	103	58	5	406

③ 回答者の職業

回答者の職業は、がん全体でみると、「その他」が 25.6% (104 件) と最も多く、次いで「専業主婦」が 15.8% (64 件)、「会社員 (事務系)」が 13.3% (54 件)、「自営業」が 11.1% (45 件)、「会社員 (技術系)」が 8.4% (34 件)、「パート・アルバイト」が 7.4% (30 件)、「会社員 (その他)」が 4.9% (20 件)、「自由業」が 4.7% (19 件)、「公務員」が 4.2% (17 件)、「経営者・役員」が 3.9% (16 件)、「学生」が 0.7% (3 件) である。

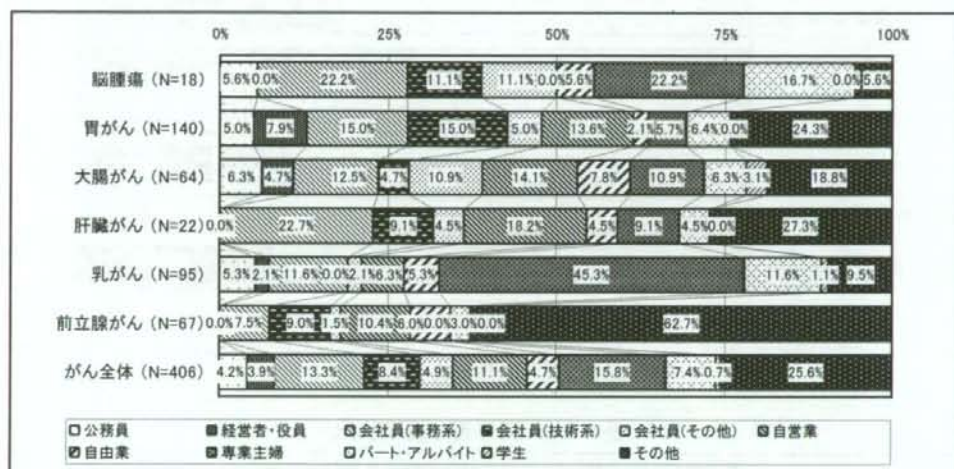


図3.3-3 回答者の職業

表3.3-5 回答者の職業

疾患名	公務員	経営者・役員	会社員(事務系)	会社員(技術系)	会社員(その他)	自営業	自由業	専業主婦	パート・アルバイト	学生	その他	全体
脳腫瘍	5.6%	0.0%	22.2%	11.1%	11.1%	0.0%	5.6%	22.2%	16.7%	0.0%	5.6%	100.0%
	1	0	4	2	2	0	1	4	3	0	1	18
胃がん	5.0%	7.9%	15.0%	15.0%	5.0%	13.6%	2.1%	5.7%	6.4%	0.0%	24.3%	100.0%
	7	11	21	21	7	19	3	8	9	0	34	140
大腸がん	6.3%	4.7%	12.5%	4.7%	10.9%	14.1%	7.8%	10.9%	6.3%	3.1%	18.8%	100.0%
	4	3	8	3	7	9	5	7	4	2	12	64
肝臓がん	0.0%	0.0%	22.7%	9.1%	4.5%	18.2%	4.5%	9.1%	4.5%	0.0%	27.3%	100.0%
	0	0	5	2	1	4	1	2	1	0	6	22
乳がん	5.3%	2.1%	11.6%	0.0%	2.1%	6.3%	5.3%	45.3%	11.6%	1.1%	9.5%	100.0%
	5	2	11	0	2	6	5	43	11	1	9	95
前立腺がん	0.0%	0.0%	7.5%	9.0%	1.5%	10.4%	6.0%	0.0%	3.0%	0.0%	62.7%	100.0%
	0	0	5	6	1	7	4	0	2	0	42	67
がん全体	4.2%	3.9%	13.3%	8.4%	4.9%	11.1%	4.7%	15.8%	7.4%	0.7%	25.6%	100.0%
	17	16	54	34	20	45	19	64	30	3	104	406

④ 回答者の通院状況

回答者の現在の通院状況は、がん全体でみると、「現在治療のために通院している」が70.9%（288件）、「現在治療のために通院していない」が29.1%（118件）である。

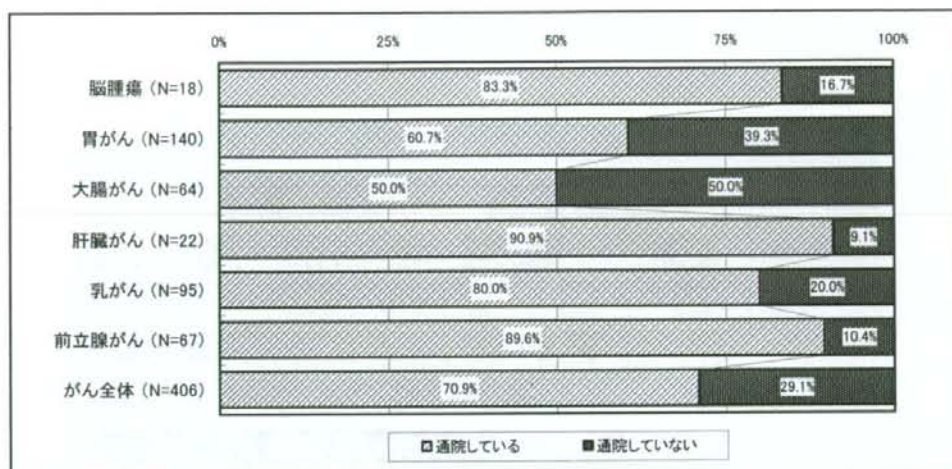


図3.3-4 回答者の通院状況

表3.3-6 回答者の通院状況

疾患名	現在治療のために通院している		現在治療のために通院していない		全 体	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
脳腫瘍	15	83.3%	3	16.7%	18	100.0%
胃がん	85	60.7%	55	39.3%	140	100.0%
大腸がん	32	50.0%	32	50.0%	64	100.0%
肝臓がん	20	90.9%	2	9.1%	22	100.0%
乳がん	76	80.0%	19	20.0%	95	100.0%
前立腺がん	60	89.6%	7	10.4%	67	100.0%
がん全体	288	70.9%	118	29.1%	406	100.0%

(2) 検査・診断時の不安・不快

① 検査・診断時の不安・不快

「検査・診断時に不安・不快を感じた」回答者の割合は、がん全体でみると、「検査・診断時になんらかの不安・不快を感じた」が76.4%（310件）と最も多く、次いで「不安・不快は感じなかった（意識はあった）」が20.0%（81件）、「不安・不快は感じなかった（意識はなかった）」が3.7%（15件）である。

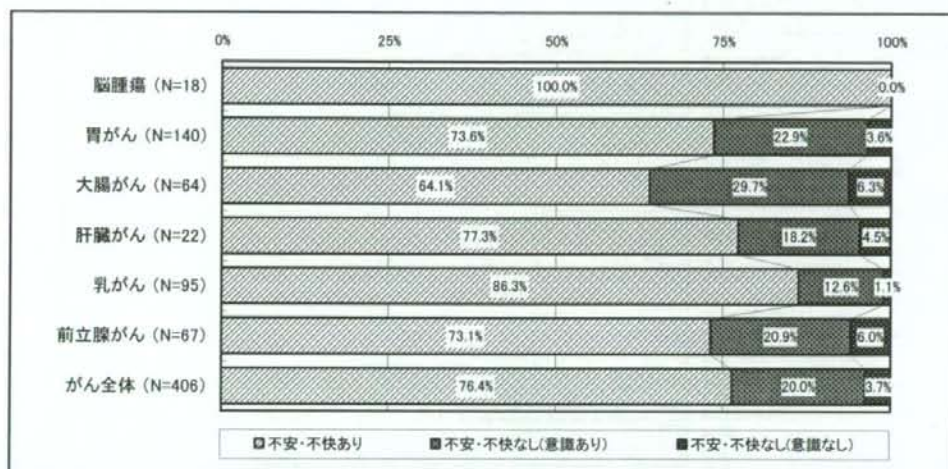


図3.3-5 検査・診断時の不安・不快

表3.3-7 検査・診断時の不安・不快

疾患名	なんらかの不安・不快を感じた		不安・不快は感じなかった				全体	
	件数	割合	意識はあった		意識はなかった		件数	割合
			件数	割合	件数	割合		
脳腫瘍	18	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	18	100.0%
胃がん	103	73.6%	32	22.9%	5	3.6%	140	100.0%
大腸がん	41	64.1%	19	29.7%	4	6.3%	64	100.0%
肝臓がん	17	77.3%	4	18.2%	1	4.5%	22	100.0%
乳がん	82	86.3%	12	12.6%	1	1.1%	95	100.0%
前立腺がん	49	73.1%	14	20.9%	4	6.0%	67	100.0%
がん全体	310	76.4%	81	20.0%	15	3.7%	406	100.0%

② 検査・診断時の不安・不快の内容

「検査・診断時の不安・不快の内容」は、以下のとおりであった。

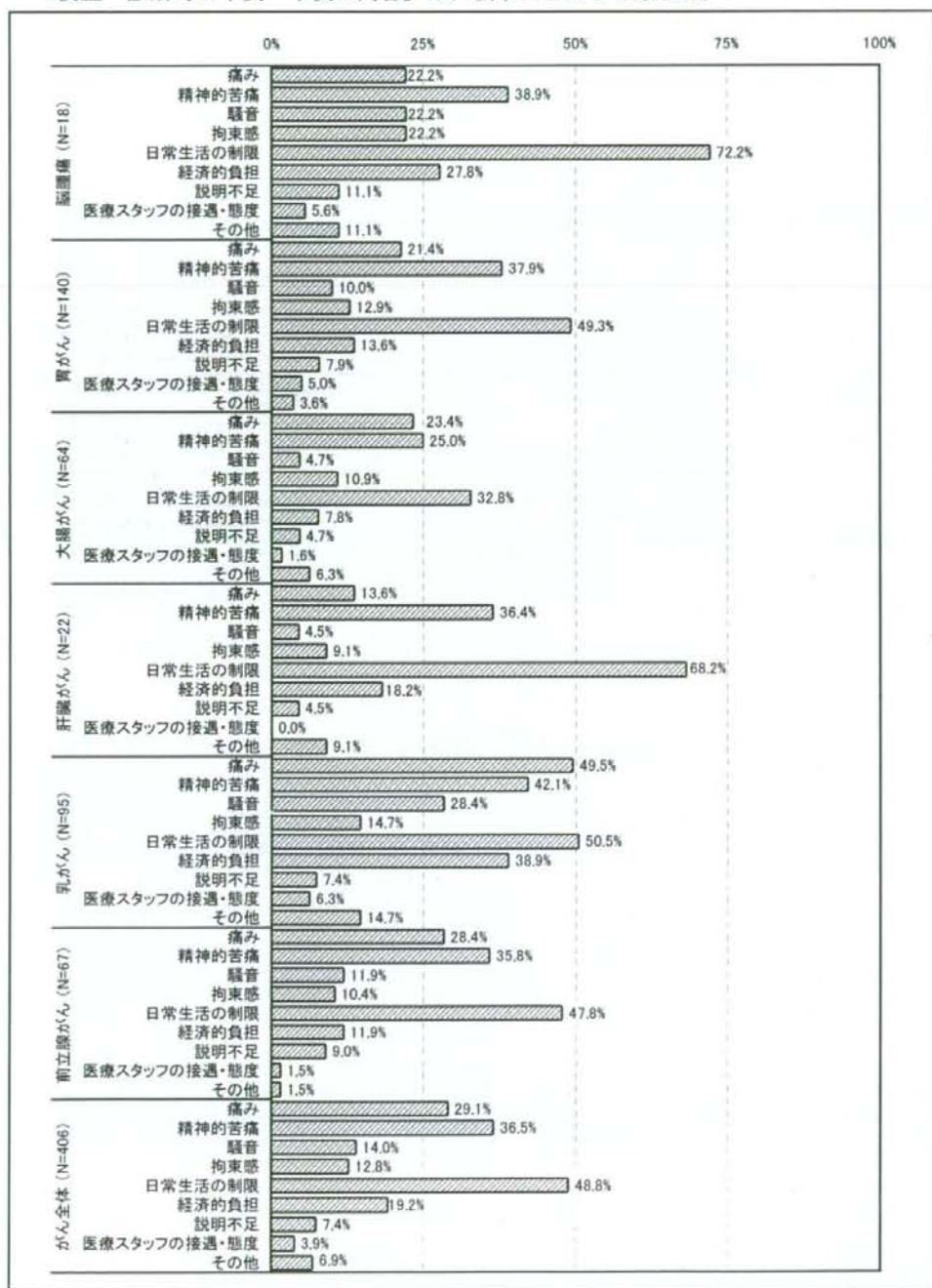


図3.3-6 検査・診断時の不安・不快の内容

表3.3-8 検査・診断時の不安・不快の内容(1/2)

疾患名	不安・不快の内容	不安・不快を感じた	
		件数	割合
脳腫瘍 (N=18)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	4	22.2%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	7	38.9%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった(MRI撮影など)	4	22.2%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	4	22.2%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された(手術・処置のために数日間入院したなど)	13	72.2%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	5	27.8%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	2	11.1%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	1	5.6%
	その他の不安・不快	2	11.1%
胃がん (N=140)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	30	21.4%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	53	37.9%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった(MRI撮影など)	14	10.0%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	18	12.9%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された(手術・処置のために数日間入院したなど)	69	49.3%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	19	13.6%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	11	7.9%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	7	5.0%
	その他の不安・不快	5	3.6%
大腸がん (N=64)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	15	23.4%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	16	25.0%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった(MRI撮影など)	3	4.7%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	7	10.9%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された(手術・処置のために数日間入院したなど)	21	32.8%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	5	7.8%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	3	4.7%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	1	1.6%
	その他の不安・不快	4	6.3%
肝臓がん (N=22)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	3	13.6%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	8	36.4%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった(MRI撮影など)	1	4.5%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	2	9.1%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された(手術・処置のために数日間入院したなど)	15	68.2%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	4	18.2%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	1	4.5%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	0	0.0%
	その他の不安・不快	2	9.1%

表3.3-9 検査・診断時の不安・不快の内容(2/2)

疾患名	不安・不快の内容	不安・不快を感じた	
		件数	割合
乳がん (N=95)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	47	49.5%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	40	42.1%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった(MRI撮影など)	27	28.4%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	14	14.7%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された(手術・処置のために数日間入院したなど)	48	50.5%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	37	38.9%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	7	7.4%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	6	6.3%
	その他の不安・不快	14	14.7%
前立腺がん (N=67)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	19	28.4%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	24	35.8%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった(MRI撮影など)	8	11.9%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	7	10.4%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された(手術・処置のために数日間入院したなど)	32	47.8%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	8	11.9%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	6	9.0%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	1	1.5%
	その他の不安・不快	1	1.5%
がん全体 (N=406)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	118	29.1%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	148	36.5%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった(MRI撮影など)	57	14.0%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	52	12.8%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された(手術・処置のために数日間入院したなど)	198	48.8%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	78	19.2%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	30	7.4%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	16	3.9%
	その他の不安・不快	28	6.9%

表3.3-10 「その他の不安・不快」

区分	コメント
脳腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> 検査後に苦痛が発生した 診断から開頭手術への説明が難しく、不安が増大した
胃がん	<ul style="list-style-type: none"> 胃カメラ検査および手術で、術後も定期的にカメラを飲んでいきます。喉通過が痛い 胃カメラ検査による苦痛 胃の内視鏡が不快だった 飲み薬がいやだった 痛みというわけではないが、胃カメラや注腸検査には不快感が伴う
大腸がん	<ul style="list-style-type: none"> 検査・診断を受けるための費用が想定したとおり高かった 研修医に代行された 少しだけ精神的に不安定になった 腸の検査のときがんではと不安を感じた
肝臓がん	<ul style="list-style-type: none"> 技師さん同士がひそひそ話していると、それだけで不安 手術前に放射線技師
乳がん	<ul style="list-style-type: none"> この病院で手術を受けるかどうか心が決まっていなかった時、看護師からどちらかきつさと決めろと冷たく言われた とにかく余命が気になった やはり診断が決定した時は落ち込んだが、医師をはじめスタッフの方が丁寧に説明して下さったので救われた 悪性か良性かなかなか分からなかった がんということで全てが不安だった 去年から検査費用が上がったと感じた 結果が出るまでの期間が長く不安 血液採取で何度も針を刺されること 最寄りに受けたい治療をしてくれる病院がなく、不安だった 持病があるため普通より経過を見るため長く入院した 術後の説明で不信感をもった 女の先生だったが、別の男の先生が女の先生に後ろのカーテンの向こう側から話しかけてきて、自分が胸を出そうとしている時だったので見られると思ってすごく嫌だった 病気に対する知識がないので不安 隣のベッドの患者がうるさくて眠れなかった
前立腺がん	<ul style="list-style-type: none"> 転移があるのではとの不安があった

(3) 検査・診断時の不安・不快に関するコメント

① 痛み

「検査・診断を受けたときに痛みがともなった」と感じた回答者のコメントは、以下のとおりである。

表3.3-11 「検査・診断を受けたときに痛みがともなった」(1/2)

区 分	コメント	
脳 腫 瘍	<ul style="list-style-type: none"> 術後のMRI撮影は頭痛が激しく我慢できなかった(30歳代女性) 頭痛(40歳代男性) 強く押さえられたとき(50歳代女性) 	
胃 が ん	胃 カ メ ラ	<ul style="list-style-type: none"> 胃カメラ(20歳代女性) 胃カメラの検査のとき(30歳代女性) 胃カメラが苦しかった(40歳代女性) 胃カメラが辛い(40歳代男性) 大腸ガン検診のための下剤がづらい(40歳代男性) 胃カメラの検査が苦痛だった(40歳代男性) 胃カメラは痛みと吐き気、大腸内視鏡は痛み(40歳代男性) 胃カメラを入れる時に(40歳代男性) 患部の痛み、胃カメラ検査の苦痛(50歳代女性) 胃カメラは痛かった(60歳代男性)
	内 視 鏡	<ul style="list-style-type: none"> 下部内視鏡検査時にS字結腸付近で痛みが強かった。ファイバーが通りにくかったのか医師の技量なのかは分かりませんが(40歳代女性) 内視鏡を挿管したときの(40歳代男性) 内視鏡検査の際、痛みや不快感があった(40歳代男性) 鼻から管を通した(40歳代男性) 検査内容により内視鏡など(50歳代男性) 内視鏡(50歳代女性) 内視鏡検査時苦しかった(50歳代男性) 胃内部と大腸内部の内視鏡検査で内視鏡を通し、内部をかき回されているような感じで、胃と十二指腸の境の辺りの検査の時が凄く痛く不安であった(60歳代男性) 動脈血採取、上腹部内視鏡の検査が苦痛(60歳代男性) 内視鏡の不快感(60歳代男性) 内視鏡を入れているとき(80歳代男性)
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> 苦しい(20歳代男性) ちょっと痛みがあった(30歳代女性) 気分も悪くなった(30歳代男性) 造影剤の点滴が濡れたため、治療が必要になった(40歳代女性) 手術後部屋に戻った時(50歳代男性) 痛い(50歳代男性) 注射が多かった(60歳代女性) ポリープ細胞採取のとき痛みがあり、その後も痛みが取れない(60歳代男性)
大 腸 が ん	大腸カメラ	<ul style="list-style-type: none"> 大腸カメラ挿入(30歳代女性) 3スコープ検査が痛かった(40歳代男性) 胃カメラ(40歳代女性) 大腸ファイバーが腫瘍部分でうまく通らなかった(50歳代女性)
	内 視 鏡	<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡検査が痛かった(30歳代女性) 肛門から管を入れた時にとても痛かった(30歳代男性) 小腸の近くまで入れたので痛かった(40歳代男性) 大腸内視鏡検査(40歳代男性) 内視鏡での空気と水を注入の時痛い思いをした(40歳代男性) 内視鏡の検査で痛かった(50歳代男性) 痛む患部を見るために検査器具を挿入した時に少々痛みを感じた(60歳代男性) 内視鏡検査に痛みを伴った(60歳代男性) 内視鏡挿入時激痛が走った(70歳代男性)
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> 腸重積を起こしていたので間欠的に痛みがあった(40歳代男性)
肝 臓 が ん	<ul style="list-style-type: none"> 血管造影に伴う痛み(50歳代男性) 胃から背中へのけいれん状態での緊急検査であったため激痛(60歳代男性) 血管造影検査や肝生検の時、痛みや不快感が伴った(60歳代男性) 	

表3.3-12 「検査・診断を受けたときに痛みがともなった」(2/2)

区分		コメント
乳がん	マンモグラフィ	<ul style="list-style-type: none"> ・しこりがあったので、マンモがとでも痛かった(30歳代女性) ・マンモグラフィが痛い(30歳代女性) ・マンモトムせいけん?とか言う検査が痛かった(30歳代女性) ・乳房を潰して検査したから痛かった(30歳代女性) ・マンモがはさむ時痛い(40歳代女性) ・マンモグラフィ、細胞採取(40歳代女性) ・マンモグラフィがとでも痛かった(40歳代女性) ・マンモグラフィがとでも痛くて鳥肌、涙、振るえ等で、休憩取りながら撮影した。とても苦痛だった(40歳代女性) ・マンモグラフィのときやマンモグラフィで確認しながら組織を採取して検査したとき、かなり痛くて苦しかったです(40歳代女性) ・マンモグラフィは胸をはさんで痛かった。我慢できないほどではないが(40歳代女性) ・マンモグラフィを取るとき非常に痛い(40歳代女性) ・マンモグラフィ検査。毎回皮膚が引っ張られて大変痛い(40歳代女性) ・マンモグラフィがとにかく痛い(40歳代女性) ・マンモグラフィが非常に痛い。半年に1度採血しているが前回11月にしたときに胸に痛みがありそれからずっと胸が重たい(40歳代女性) ・マンモグラフィで胸が痛かった(40歳代女性) ・マンモグラフィのはさむ力が強すぎるのではないかと思うくらいだった(40歳代女性) ・マンモグラフィ検査は部位的にも写しにくい場所であり大変だった(40歳代女性) ・マンモグラフィ(50歳代女性) ・マンモグラフィは腫瘍があるときには特に痛かった(年齢不明女性) ・マンモグラフィが痛かった(50歳代女性)(60歳代女性) ・マンモ撮影の際の圧迫痛。細胞針採取の際、部分麻酔を使ってももらったが痛かった(50歳代女性) ・採血の失敗、マンモグラフィ(50歳代女性) ・針検針の時とマンモグラフィの時、手術後麻酔から覚めた時(60歳代女性)
	細胞診	<ul style="list-style-type: none"> ・針での細胞診の時、なかなか採取できず何回もやったので(30歳代女性) ・針を刺して細胞を摂取した(30歳代女性) ・細胞検査で細胞を採取時(40歳代女性) ・細胞診の処置後に痛みが残った(40歳代女性) ・細胞診の注射に時間がわかり、ものすごく痛かった(40歳代女性) ・細胞診や針生検で検体を採取するときの痛み(40歳代女性) ・細胞診を行ったときだが、熟練の医師ではなく、何度も針を刺されてかなり痛かった(40歳代女性) ・細胞針で組織を取ったときが痛かった(40歳代女性) ・組織をとる際10回ほど針を挿入されたが、麻酔をしているにも関わらず痛みがあった(40歳代女性) ・組織検査の際に針を刺してとった(40歳代女性) ・注射針をさして細胞を取って診断したとき(40歳代女性) ・検査で針を刺したとき、痛くないと言われていたけどめっちゃ痛かった(40歳代女性) ・検査のための細胞切除(50歳代女性) ・細胞を採ったとき(50歳代女性) ・細胞診か組織を採取する時にかなり痛みがあり、また出血がひどかった(50歳代女性) ・注射が異常に痛かった(50歳代女性)
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・生検の時の痛み(30歳代女性) ・これが何々という症状ですよと患部をピンセットで押されながら他の先生に説明していた。傷も痛かったが無断で他の人に見せるのは不快(40歳代女性) ・レントゲンを撮った時(40歳代女性) ・痛み(50歳代女性) ・確立50%の検査なのに、結構痛くてビックリしました(60歳代女性)
前立腺がん	細胞採取	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞組織を採取する際とその後数日痛みと血尿があった(60歳代男性) ・生検での採取が麻酔なしで痛かった(60歳代男性) ・生検で針をさすときに痛みを感じた(60歳代男性) ・生検で前立腺の組織を採取するときの痛み(60歳代男性) ・生検検査の時細胞を採取するとき(60歳代男性) ・生体採取の針の注入時(60歳代男性) ・細胞採取に痛みが伴う(70歳代男性) ・生検(70歳代男性)
	カテーテル	<ul style="list-style-type: none"> ・カテーテル挿入後、痛くて小便ができなかった(60歳代男性) ・生検の際の持続尿道カテーテルが苦しかった(70歳代男性) ・尿道に管を入れる時痛かった(70歳代男性)
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・生体検査の際痛みがあった(50歳代男性) ・検体後痛みのため投薬を受けた(60歳代男性) ・尿道が痛かった(60歳代男性) ・精研後。2日間痛んだ(70歳代男性) ・精密検査で前立腺から試料採取のとき痛みを伴った(70歳代男性) ・前立腺の触診時に肛門に酷い痛みを感じ出血した(痔疾が有るのが一因ですが)(70歳代男性) ・麻酔はしたのですが、生検はかなり痛かった(80歳代男性)

② 精神的苦痛

「検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった」と感じた回答者のコメントは、以下のとおりである。

表3.3-13 「検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった」(1/3)

区 分	コメント	
脳 腫 瘍	<ul style="list-style-type: none"> ・ 余命宣告もあったので仕事などをどうしようかと悩んだ(30歳代女性) ・ 病状の結果を聞くときに精神的苦痛が大きい(40歳代男性) ・ 頭が痛い(40歳代男性) ・ 脳腫瘍を理解できず、死ぬのかと感じて息苦しくなった(50歳代女性) ・ このまま生きて帰れないかもしれないと感じていた(50歳代男性) ・ 先生の言葉が少なめだった(50歳代女性) ・ 失明するかもしれないといわれた(60歳代女性) 	
胃 が ん	検査・診断	<ul style="list-style-type: none"> ・バリウムのげっぷを抑えること(40歳代男性) ・胃カメラをしたとき(40歳代女性) ・胃カメラ(50歳代男性) ・注射が痛かった(50歳代男性) ・CT検査で造影剤の熱さが気持ち悪い(60歳代男性) ・胃の内視鏡検査時胃カメラの挿入に苦痛があった(60歳代男性) ・初めての検査内容に不安を感じた(80歳代男性)
	手術・処置	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に手術をしたことがないので不安だった(50歳代男性) ・手術は成功するのかが心配だった(50歳代男性) ・安全処置していただけるか(60歳代男性) ・検査の結果手術への恐怖(60歳代男性) ・手術までの期間が長かったので不安でした(60歳代女性) ・初期がんと診断なのに3分の2切除と言われかなりのショックを受けた(60歳代男性) ・摘出手術を想像した(60歳代男性) ・内視鏡検査のとき数名の学生インターンが見学し、質問などしながらの検査は極めて不快であった(60歳代男性) ・不祥事故(60歳代男性)
	説明・診断	<ul style="list-style-type: none"> ・説明が不明確で、何が行われるのか不安でしよがなかつた(30歳代男性) ・何をされるのかが不安だった(40歳代男性) ・インフォームドコンセントをやるかどうか(50歳代女性) ・どの程度のおもかく分らなかつたため(50歳代男性) ・医師の説明がストレートすぎる(50歳代男性) ・結果により次は何をされるか不安である(60歳代男性) ・始めは、胃潰瘍の診断だったから(60歳代男性) ・なかなか正確な判断をしてくれないため(70歳代男性) ・家族だけで医者と話したこと(70歳代男性)
	生命の不安	<ul style="list-style-type: none"> ・がんなのか恐怖でした(20歳代女性) ・死を感じ、苦しくなつた(20歳代男性) ・がんかも知れないという恐怖(40歳代男性) ・結果が出るまでが不安だった(40歳代女性) ・死ぬかもしれない恐怖(50歳代女性) ・死んでしまう(50歳代男性) ・生存不安(50歳代男性) ・ほんとうに手術して助かるのか(60歳代女性) ・初期と言われたが、転移が不安でした(60歳代男性) ・症状の重さについて(60歳代男性)
	将来の不安	<ul style="list-style-type: none"> ・家族のこと(30歳代男性) ・今後の生活に不安があつた(50歳代男性) ・進行具合が不安のため(50歳代男性) ・どういふ結果がでるか不安だった(60歳代男性) ・一番嫌な病名だったので、これで人生が終わつたような気がして何もする気がしなかつた(60歳代男性) ・自覚症状が何もなかつた3か月前まで元気に働いていたし、検査結果を聞いた時には本当にがんなのか、拾うのか不安でまた家族にどう説明しようかなど精神的圧迫があつた(60歳代男性) ・がんと診断されれば、誰でも不安になると思う(70歳代男性)
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・なんとなく(30歳代女性) ・圧迫感を感じた(30歳代女性) ・告知を受けたときに気が遠くなつた(40歳代男性) ・普通(40歳代男性) ・疑心暗鬼になる(50歳代男性) ・全身の力がぬける様だつた(50歳代男性) ・自身にアクシデントがあつたので中止する(60歳代女性) ・精神的に落ち込んだ(60歳代男性)

表 3.3-14 「検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった」(2/3)

区 分		コメント
大腸がん	検査・診断	<ul style="list-style-type: none"> 結果が気になり不眠症になった(50歳代女性) 検査結果が出るまで日数がかかり不安であった(50歳代男性) 検査入院自体の目的がよく分からなかった(50歳代男性) 長時間の検査のため苦痛(50歳代男性) 結果が気になる(60歳代男性) 初めての経験のため器具を体内に挿入したときの苦痛を心配したため(60歳代男性) 内視鏡手術で患部位が大きいときには開腹すると聞いたとき(60歳代男性)
	説明・診断	<ul style="list-style-type: none"> がんの診断を受けるとは思わなかったため、検査中の空気の重さを感じ怖かった(50歳代女性) がん告知を受けたとき(40歳代男性)
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> 場所が場所なので(30歳代男性) 大丈夫か心配になった(30歳代女性) 死にたおそて(50歳代女性) パニック障害の私にはきつかった(40歳代男性) ショックが大きい(50歳代男性) 待合中にかんずる(50歳代男性)
肝臓がん	説明・診断	<ul style="list-style-type: none"> 病気の詳しい事がよく分からなかったからこれからの事を考えると不安になった。担当医にも私の病気が今後どのように酷くなるか分からないのだという事はわかるのだが、もう少し具体的に病気が進むとどうなるかと詳しく話して欲しかった(50歳代女性) 肝臓に大きな影があり精密検査を必要とするから緊急入院と言われたための不安(60歳代男性)
	手 術	<ul style="list-style-type: none"> カテーテル治療に使った尿道カテーテル(40歳代男性) 検査・治療が無事に終了するかという精神的不安が強かった(50歳代男性)
	将来の不安	<ul style="list-style-type: none"> 今後について(40歳代男性) 自分がこれからどのように行けるか、未知への不安を感じた(50歳代男性) 生存の可能性(70歳代男性)
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> これは主に自分側の問題で医療現場とは関係ないかもしれないが精神的不安感が高かった(40歳代女性)
乳がん	検 査	<ul style="list-style-type: none"> 乳房を潰す検査が嫌だった(30歳代女性) CT等の検査のときに圧迫感があった(40歳代女性) 今まで受けたことのない検査を次々に受けるので精神的・肉体的にとても苦痛だった(40歳代女性) いろんな検査を受けることになったので、まさかがんのかと思うと心理的にかなりきつかった(40歳代女性) どのような結果が出るかと不安だった(40歳代女性) 悪性か良性かの診査結果なかなかでなかった(40歳代女性) 検査を受けてから結果が出るまで1週間ほど待たされるので不安(40歳代女性) MRI、骨シンチなど圧迫されるような場所は苦手(50歳代女性) 手術による外的な(30歳代女性) マンモグラフィ(50歳代女性) マンモグラフィの検査が痛かった(50歳代女性)
	説明・診断	<ul style="list-style-type: none"> 乳がんの診断を受けた時(40歳代女性) がんの告知(50歳代女性) がんと言われたらただならぬ想定内だが、「ああ、もうリンパまでいってる」という言い方で転移を告げられた(40歳代女性) 看護師の心ない一言。乳がんにかかると子宮がんにかかりやすいのよね〜(40歳代女性) 検査中に医師や看護師がいきなりばたばたと動き出したので、診断の前にがんであることを意識してしまったこと(40歳代女性) どうてことないといわんばかりだった(50歳代女性) 生命にかかわるほどのものではない、初期の非浸潤がんと説明されてもどこまで信じて良いのか分からなかった(30歳代女性) がんと聞いただけで、相当ショックを受けた(40歳代女性) がんと知らされたときのショックはとて辛かった(40歳代女性) 結果を知られるまで、毎回ストレスである(50歳代女性) がんの予備知識が全くないので何もわからず怖かった(50歳代女性)
	生命の不安	<ul style="list-style-type: none"> こわかった(30歳代女性) がんという言葉=死というイメージで頭がくらくらするほど衝撃だった(30歳代女性) 死の恐怖(30歳代女性) 検査による不安と言うより、診断を受けた後のこれからの自分に対しての不安が大きかった。「死」の恐怖が先にたつてしまった(40歳代女性) 検査の度に、少しでも重観視したかった病状がそうでもない、と否定されてしまい、苦しかった(40歳代女性) 治るのかと心配(40歳代女性) 病気が病気だけに不安があった(40歳代女性) 再発の不安(50歳代女性) 自分ががんになった事に強い恐怖を感じた(50歳代女性) 先行きのことが心配になった(30歳代女性) 病気の状態や今後の生活に対する不安(40歳代女性) 突然のことで、パニックになった(30歳代女性) どうしたらいいのか不安になった(40歳代女性) 不安感(40歳代女性)

表3.3-15 「検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった」(3/3)

区 分	コメント
前立腺がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査で針を刺すということが少しこわかった(70 歳代男性) ・ 検査結果とか副作用とか不安だった(70 歳代男性) ・ 検査方法や検査結果についての不安など(70 歳代男性) ・ 事前に検査針は痛い聞いていた(70 歳代男性) ・ 細胞を 10 箇所採取する数の多さ(60 歳代男性)
生命の不安	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の臓器への転移などの心配(40 歳代男性) ・ がんになったという怖れ(60 歳代男性) ・ がんになってどう対処するのか(60 歳代男性) ・ なおるか？(60 歳代男性) ・ がんに対する不安(60 歳代男性) ・ がんの進行程度、転移の有無等(60 歳代男性) ・ 病気への不安(60 歳代男性) ・ 命にかかわる病ではと心配だった(60 歳代男性) ・ もうダメかと不安が横切る(70 歳代男性) ・ がんに恐れを感じた(70 歳代男性) ・ がんの進行状況に対する不安(70 歳代男性)
将来の不安	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何年生きられるかを考えた(60 歳代男性) ・ 日常生活にどんな制限や変化をもたらすのか心配であった(70 歳代男性)
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ どん底に突き落とされた感じ(30 歳代男性) ・ どうして俺が何だ…と言う感じ(60 歳代男性) ・ がんという病名自体による苦痛(60 歳代男性) ・ 自分がガンに！(60 歳代男性) ・ 不安感(60 歳代男性) ・ がん宣告を受けることを怖れたのかもしれません(80 歳代男性)

③ 騒音

「検査・診断を受けたときに騒音が気になった」と感じた回答者のコメントは、以下のとおりである。

表3.3-16 「検査・診断を受けたときに騒音が気になった」

区分	コメント
脳腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRI特有の工事現場のような音が気になった(30歳代女性) ・ 医療機器MRIの音が「ギー」「ガー」と、大きな音だったため、ビックリしたけど今は慣れた(30歳代男性) ・ うるさい(40歳代男性) ・ 閉所で長時間にいると音はうるさいし気分が悪くなる(50歳代女性)
胃がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りが煩かった(20歳代女性) ・ あまりいい気分ではなかった(30歳代男性) ・ 機械の音が少しした(30歳代女性) ・ 精神的に参っているせいもある(30歳代男性) ・ MRIの騒音(40歳代男性) ・ MRI(40歳代女性) ・ 音がうるさくて時間が長かった(40歳代男性) ・ ディスコのような音(50歳代男性) ・ 機器の音が予想以上に大きく多少不安になった(50歳代男性) ・ 耳栓をしてうるさく、動けないと思うと辛い(50歳代女性) ・ 騒音(50歳代男性) ・ 騒音で不安を感じた(50歳代男性) ・ MRI検査中はかなりの騒音(60歳代男性) ・ 騒音もトンネルみたいな処の圧迫感(70歳代男性)
大腸がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRIの音(40歳代男性) ・ 機器がやかましく不快だった(50歳代女性) ・ 内視鏡の操作音が気になったような気がする(60歳代男性)
肝臓がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRI撮影時に騒音でオペレーターの言うことがわからなかった(70歳代男性)
乳がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRIの音。マンモトームの音(30歳代女性) ・ MRIの音がうるさい(30歳代女性) ・ MRIはうるさい(30歳代女性) ・ MRI検査時(30歳代女性) ・ MRI撮影時の音が気になった(30歳代女性) ・ 乳がんではMRIを3度受け、子宮のMRIも最近受けましたが、慣れるものではありません。検査ですから…(30歳代女性) ・ MRI。かなりうるさい(40歳代女性) ・ MRIの音(40歳代女性) ・ MRIの時うるさかった(40歳代女性) ・ MRIはうつぶせになって苦しかったうえ、音がすごく、ヘッドホンで音楽を流してくれたが、効果なかった(40歳代女性) ・ MRI撮影は聞いてはいましたが、結構うるさくて驚きました(40歳代女性) ・ MRI(50歳代女性) ・ MRIの音がうるさい(50歳代女性) ・ MRIの際ヘッドホンで音楽を流してもらえたが、2回目は壊れていてものすごくうるさかった(50歳代女性) ・ MRIの雑音(50歳代女性) ・ MRIの騒音が不快だった(50歳代女性) ・ ドンドンと重低音が怖かった(30歳代女性) ・ ガンガンと音が気になり不安だった(40歳代女性) ・ たえられないほどではないが、騒音がもう少し小さいといいたいと思った(40歳代女性) ・ ヘッドホンをして気になった(40歳代女性) ・ 音も気になるが、同じ姿勢で30~40分いなくてはいけなくてきつかった(40歳代女性) ・ 機械の音が不安を駆り立てるので嫌だった(40歳代女性) ・ 耳栓をしてうるさい(40歳代女性) ・ 初めて入ったところなので看護師さんの説明はあったが、とてもびっくりした。時間的にも結構がかるので疲れた(40歳代女性) ・ 説明は受けたが狭い中でかなり大きな音だった(40歳代女性) ・ 騒音の説明をうけ、ヘッドホンもしたが、想像以上のものすごい音だった(40歳代女性)
前立腺がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRIの音が大きかった(60歳代男性) ・ 精密検査で転移していないかMRI撮影のとき(60歳代男性) ・ MRIの騒音は嫌なものだ(70歳代男性) ・ 検査前に聞いてはいたが、非常にうるさかった(40歳代男性) ・ やかましかった(60歳代男性) ・ 事前に説明を受けたが気になって落ち着かなかった(60歳代男性) ・ 説明を受けていたのでちょっと気になった程度(60歳代男性) ・ 高音の雑音が長時間続くので(70歳代男性)